

廃棄クズ柿の堆肥化法と製造堆肥の品質

[研究のねらい]

紀北地方の選果場等で発生する廃棄クズ柿は、現在、農家個々で廃棄処分が行われていますが、害虫の発生や作物への悪影響が課題となっているため、廃棄クズ柿処理を目的に業務用高速発酵処理装置を用いた堆肥化法を明らかにします(図1)。

[研究の成果]

- ①脱渋時に発生する軟化柿等、廃棄クズ柿を業務用高速発酵処理装置により単独処理する場合、水分調節資材としてオガクズを、分解促進剤として石灰窒素を目標炭素率 30 として投入します。14 日以上処理日数を経た堆肥は市販牛糞オガクズ堆肥と同等の発芽、生育を示します(写真1)。
- ②廃棄クズ柿の単独処理では、水分を除くだけの乾燥処理や、不十分な発酵日数で製造された物は、発芽障害や生育障害が生じる(写真2)。

[成果の活用面・留意点]

- ①この成果は、連続投入型の業務用高速発酵処理装置に適用できます。
- ②選果場の入荷(日)状況により柿クズの投入を行わない日、又は投入量の少ない日は、水を添加して発酵を維持できる水分状態に保つ必要があります。

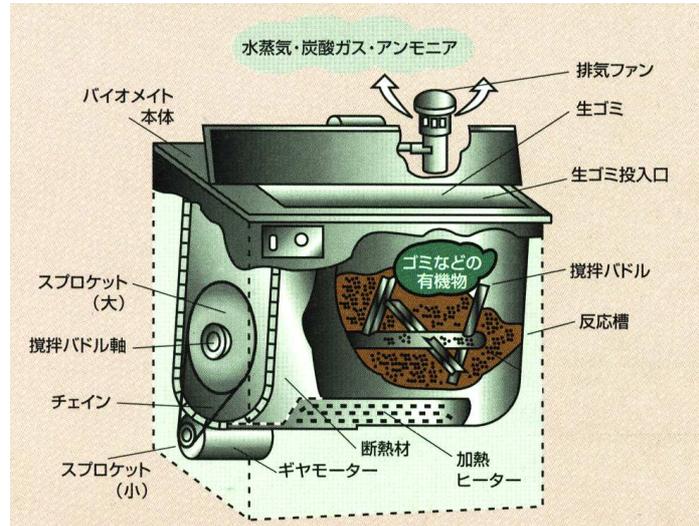


図1 業務用高速発酵処理装置の概要



写真1 堆肥化処理を行った柿堆肥で栽培したコマツナ
注)左:柿堆肥、右:牛糞オガクズ堆肥



写真2 柿乾燥粉で栽培したコマツナ(写真左)
と土のみで栽培したコマツナ(写真右)

実施年度：平成 11～12 年度

担当者：林俊孝、久保浩之、林恭弘、平田滋